

お茶の水女子大学ネットワークの展望

大口 勇次郎

第2部では、日本学を研究する際に、インターネットを利用したネットワークがどのように役に立つかという観点から、先進的な活動をされている大学と研究機関からいくつかの報告をいただきました。二つのことが話題になりました。一つは自分たちの研究の現状をいかに情報として発信するかという問題です。もう一つは研究を進める際の手段としての情報検索機能の現状です。

第二の点から申しますと、学術情報センターや国文学研究資料館の先生方からそれぞれお話を伺いました。これを聞いた多くの方は、情報検索の現状が、こんなに進んでいるのか、という感想をもたれたのではないかと思います。利用のためのIDカードを持っておられる方も多いと思いますが、必ずしも十分に利用しているとは言えないのではないのでしょうか。学問研究の一つの道具として、もっと活用していかなければならないでしょう。そのためには、学生諸君がもっと利用できるように、利用方法などをカリキュラムのなかに織り込んでいくことも考えなくてははいけないでしょう。

もう一点は、デューク大学のホームページの経験についての畑佐先生の報告です。たいへんわれわれにも参考になるお話でした。ここで、お茶大の発信するホームページの現状について一言申しておかなければなりません。日本学関係の研究室では、日本語教育の研究室が、学科・専攻の紹介に取り組んでおり、史学の研究室は主として受験生向けの情報を提供しています。また大学院後期課程のホームページが最近開かれ、この国際シンポジウムも紹介されています。しかし全体的に見て、まだまだ情報量は少なく、何を発信すべきかについても合意が出来ていないように思われます。日本学レベルでも、あるいは人文系研究室、学部、大学のレベルでそれぞれ検討を始めるときでしょう。もちろん学術情報センター、国文学研究資料館のようなレベルの情報を提供することは出来ないし、また必要ないと思います。その代わりに、例えば今日の質疑のなかでも出ておりましたが、卒業して帰国した留学生を対象にした情報提供、情報交換を考慮したネットワーク作りなどは検討に値すると思われます。次回のシンポジウムまでには、お茶大ももう少ししっかりしたホームページを作りたいと思います。

最後に、第3部のまとめとして、昨日の分科会で行われた報告と討論の様子を、それぞれ司会の先生方から要約していただきたいと思います。そのあとで、最後に、これまでの2日間のシンポジウムの総括と、今後に残された課題について、徳丸研究科長から報告をいただきます。

(シンポジウム当日は、このあと分科会司会者による分科会の報告がありました。分科会の部の「まとめ」を参照してください。)